

23 市町等の現状・課題等

※ () 内は市町・団体における課題への対応状況等

【1 市町社会教育費の現状】

- ・ 予算規模が縮小傾向であり、継続が難しい事業も生じてきている。(効率的な予算執行に努める。)
- ・ 職員数の減により、一人当たりの業務量が増加してきている。(事務事業のスクラップアンドビルドを徹底している。)

【2 市町社会教育関係職員の現状】

- ・ 社会教育指導員を配置しておらず専門的に取り組むことが難しい。(学校との連携や学校教育との連携を図りながら進めている。外部講師などを活用しながら事業実施している。)
- ・ 町長部局を含めると社教主事有資格者は複数いるが、計画的な任用はなされていない。
- ・ 社会教育主事の役割が明確ではない。
- ・ 所管する業務が年々増加している。(事業の見直しが必要。)

【3 市町社会教育委員の現状】

- ・ 団体会長など充て職の方が半数おり、1年での役職変更による交代もあることから任期を全うできない。また、委員会の協議内容がマンネリ化(形骸化)している。(団体の長ではなく一代表として委嘱し、役職の変更があっても任期を全うしてもらうよう、委嘱時をお願いをする。)

【4 ボランティアバンク設置・ボランティア活動の現状】

- ・ 参加者の減少対策、若い世代へのボランティア情報伝達手段について検討が必要。(ツイッターを利用した広報・情報伝達を開始した。)
- ・ ボランティア市民活動センターの認知度が低い。(ケーブルテレビを使ってボランティア市民活動センターのPR番組を放映し認知度アップを図る。)
- ・ ボランティア指導者名簿は作成しているが、十分に活用できていない。

【5 公民館運営審議会の現状】

- ・ 充て職での委員が多い。
- ・ 地域で活躍されている人材は公民館からも頼られており、充て職で負担をかけているケースも多い。

【6 公民館施設・体制の現状】

- ・ 現在すべての館が無人となっており、地域の声が届きにくい。(近隣の有人施設(他課)と連携し対応を行っている。)
- ・ 公民館職員はすべて兼務体制であるので、講座や教室の実施が十分できていない。
- ・ 少ない講座でも内容がマンネリ化しないよう工夫しているが、十分対応できていない。
- ・ 施設の老朽化により、取り壊しや建て替えについても検討が必要。
- ・ 正規職員数が減少する中、地域づくりの拠点である自治センターに求められる役割は年々大きくなっている。(事業の精選や経費の節減等の工夫をしている。)

【7 公民館利用の現状】

- ・ 利用者の減少、高齢化、若い世代の公民館活動への参加が少ない。(公民館単独ではなく他の機関との連携をはかり、新しい企画を行う)
- ・ 主催事業、新しい企画等が実施できていない。内容のマンネリ化。(地元の高校との連携を図る。)

【8 青年を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 参加者の減少(夏休みの長期休暇を利用した親子を交えた体験型講座の企画)

【9 女性(婦人)を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 新規参加者を増やしたい。(公民館だよりや諸会合等で呼びかけを行い周知を図っている。)
- ・ 働く女性が多く、参加者が限定される。
- ・ 健康意識が高く、健康に関する講座への参加者が多い。
- ・ 男性も積極的に参加する傾向にある。
- ・ 多様な実践活動への取組や主体的な社会参加の促進し継続した活動の実践に取り組んでいる。
- ・ ぼかし作り講習会、廃油石鹸作り教室において参加人数が年々少なくなってきた。 (公民館だよりでの周知や女性団体への声掛け等で参加を呼び掛けている。)
- ・ 講師の高齢化で、講習会開催が難しくなってくる。
- ・ 参加人数が少ない。(会員全員に呼びかけ、実施日を休日にする事で参加しやすくしている。)
- ・ 参加者の確保(婦人会の研修と合同とすることで、研修の場を確保している。)
- ・ 参加者が役員を中心に固定化している。(役員を通じ、各団体への参加呼びかけを行っている。)

【10 成人を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 参加人数の低迷(開催日時等を常時掲示し呼びかけを強化。地域内外に広く参加募集を呼びかけている。)
- ・ 地域によって男女の参加の比較差が大きい。学級生の意欲と資質の向上が必要。(リーダー養成講座と参加者の自覚促進。参加者のニーズに応えられる内容にしている。継続的な取り組みが必要。)
- ・ 講座の内容を工夫したり、形式を変えたりしてマンネリ化を解消している。
- ・ 成人を対象にどのような事業を提供すればよいか。(語学、教養(趣味)等を通じて、仲間作りや地域の指導者等を育成するための事業展開を随時企画している。)

【11 家庭教育に関する講座の現状】

- ・ 参加人数を増やしたい。子供の数が減少している。三世代交流が数年先にはできなくなっている状況で、講座の維持が困難な状態となっている。(公民館だよりに掲載し、関係諸団体に案内文を配布してもらっている。学校の協力を得、学校と連携した講座としている。)
- ・ P T Aとの連携・協力が不可欠である。学習内容や学習方法にマンネリ化が生じている。(子育てやしつけ等についての講座の充実。)
- ・ 父親の積極的参加が必要である。(望ましい家庭環境や家庭教育の在り方を追及する。)

- ・ 参加者の確保（参観日や保護者会の活用、保健センター事業との共催を行う。）

【12 高齢者を対象とした学級・講座の現状】

- ・ 参加人数を増やしたい。（公民館だよりに掲載し、シルバークラブ会長、単位自治会長に周知のお願いをしている。）
- ・ 出席率を高めるための手段が必要。（教室前に各リーダーが電話で出席確認を行っている。）
- ・ 新しい会員の参加（呼びかけ、活動の工夫）
- ・ 心身の健康に関する活動を中心とし、ボランティア活動等の推進が必要。（高齢者の特技を活かした活動と世代間交流。）
- ・ 高齢者の交通安全・認知症予防等の学習の必要性。（高齢者の生きがい活動づくり。）
- ・ 高齢者だけの活動ではなく、他の学級との交流も必要である。（他の学級との交流を実践。）
- ・ 老人クラブに加入していない方でも参加できるよう、ルール改正する。

【13 青少年の地域活動の現状】

- ・ 休日の習い事やクラブ活動で参加者を募るのが難しい。（学校との連携、年間計画で早めに周知しておく。放課後児童クラブや部活動との連携を図る。）
- ・ 海に慣れていない児童の監視、怪我・不調等が心配である。（学校、インストラクターとの連携を図る。）
- ・ 参加者の固定化、伸び悩み。（PR方法を工夫する。）

【14 子ども会の現状】

- ・ 生徒数の減少に伴い、福祉会館の文化祭に向けての取り組みが難しい。（館長と相談して、少人数でも可能な活動内容とするなど工夫している。）
- ・ 児童数の減少とともに、子ども会育成会の活動が休止状態となり、学校との連携が弱くなっている。（人数は少なくとも、学校と保護者のコミュニケーションを怠らないよう、連携を念頭に置き子ども会の育成に関わる。）

【15 目的少年団体の現状】

- ・ スカウトの確保が困難。（一般の方を対象にしたイベントを実施したり、地元イベントへ賛助出演する。）
- ・ 指導者が高齢化している。（若手指導者育成のための研修会を実施している。）
- ・ 新規入会者が少ない。（地域の会場を利用して活動紹介したり、体験活動の計画を立てたりしている。活動案内のチラシ作成をしたり、SNSで発信したりしている。）

【16 青年団体の現状】

- ・ 名簿としての団員数は一定程度あっても、実際に活動に参加できる団員が少ない。（既婚者も継続して団員となることで活動を維持している。）
- ・ 団員数が減少し、活動時間がなかなか取れない。（気軽に参加できる企画、団員外も参加してよい交流会などを持つようにしている。）
- ・ 団員が役場職員に偏っている。自治会制度が推進されるにつれ、自治会での活動が充実し、青年団そのものの存在が弱くなっている。（青年団活動の先進地への視察研修など、団員のモチベーションアップを考えている。）

【17 婦人団体の現状】

- ・ 会員の減少と高齢化。(公民館活動を通じて、他の団体との協働を図ったり、情報収集に努め、新たな研修を取り入れたりしている。)
- ・ 新入会員がいない。(地域の行事や文化祭などに参加して、婦人会活動の内容や存在の大切さをPRしている。)
- ・ 活動がマンネリ化している。(PTA行事に協力し、OGの方を勧誘している。)
- ・ 自治会制度が推進されるにつれ、自治会女性部での活動が充実し、婦人会組織が弱体化している。(自治会とのすみわけしたり、婦人会に特化した活動を行ったりしている。)

【18 愛護班の現状】

- ・ 会員数の減少により、十分な活動を行えない地区がある。(合同で行事を行ったり愛護班を再編成する等の方策を検討している。)
- ・ 指導者を確保するのが難しい。(地域の「コミュニティ推進委員会」と連携を図っている。)
- ・ 会員数が減少し、愛護班費の集金等の班長の負担感がやや増えている。(公民館と連携し愛護班活動に関する記事を広報に掲載し、協力を呼びかけた。)
- ・ 児童数の減少に伴い、行事を運営する上で負担が大きくなってきている。(児童数の少ない班を統合・再編制しながら、活動しやすいように工夫している。)
- ・ 世帯数の減少により、単位愛護班での活動が難しくなってきている。(複数班合同での実施を検討したり、PTA活動と兼ねた取り組みを実施している。)
- ・ 子どもが少なくなっており、数年後には存続が危ぶまれる。参加者が少ない。毎年同じ行事をしている。(隔年で地区住民全てを対象とし、日帰り旅行に変更したり内容を工夫したりした。)
- ・ 活発なところもあるが、全体としては少子高齢化で活動の回数・規模が縮小傾向にある。(できるだけ負担がかからず、気軽に参加して楽しめる事業を検討している。)
- ・ PTA活動と同じと考える地区もある。(公民館と連携して事業を行ったり、地域資源を生かした、郷土愛を育む事業を心掛けている。)
- ・ 少子化に伴う世帯・班員数の減少により愛護班の設置を取りやめている。(愛護班活動を周知し勧誘する。)

【19 PTAの現状】

- ・ 子どもたちと一緒に体を動かすということを主眼にしているが、スポーツが苦手という保護者もいる。(親子クラスマッチと合わせて奉仕作業の協力依頼をし、クラスマッチに出られない方は奉仕作業等を通して子どもたちの活動風景を見てもらっている。)
- ・ PTA活動への関心が薄れてきて参加者の人員確保が難しい。(活動内容の見直しができないか役員や部員と検討している。)
- ・ 家庭数の減少により、本部役員、学級役員が多年に渡る場合が出てきた。また、行事の参加人数が減少してきている。さらに、会計収入が減少し財政が厳しくなっている。)
- ・ 保護者の参加がPTA役員に偏りがちである。(役員が特定の方に偏らないよう小学校6年間で一度は役員になる仕組みを作っている。また、PTA会員に対して、各種行事への積極的な参加を呼び掛けている。)
- ・ 共働きの家庭の増加により、各活動において人手不足になっている。(全家庭に向

けて、活動内容のお知らせと協力依頼を呼び掛ける。)

- ・ 男性の参加を促したい。(総会を夕方以降に行うなど参加しやすい時間帯の設定や、役員からの参加呼びかけを継続している。)
- ・ 部活動の大会と重なり、活動に参加できない家庭がある。(日程変更が可能な部活動の練習試合等はできるだけ変更する。)
- ・ 地域全体に情報発信する機会が多く、全体に行き届かないこともある。メール等を使いたいが高齢者も多く徹底できない。また、会員数減少のために一人一人の負担が増している。(会員数の減少はなかなか食い止められないが、地域団体または広報委員をはじめとする地域の方、一人一人との協力体制を整え、PTA活動が負担にならないよう努めている。)
- ・ 多様化するニーズへの対応及び安全管理面の保持、運営の主体となる役員の担い手が不足している。(内容の精選と役員の負担軽減を検討する。)
- ・ 地域住民の高齢化やPTA会員数の減少により、事業運営が年々厳しくなっている。(小学校PTAについては、隣接している幼稚園PTAとほぼ統合して活動しており、会員の負担軽減につながっている。)
- ・ 家庭数減少により連続で役員になるなど、役員選出が困難である。(地域性もあり、学校やPTAにも協力的な保護者が多く助けられている。役員数の削減などを実施し、現状の活動を維持できる方向で取り組んでいる。)
- ・ 会計管理が複雑で、金銭の取扱いに苦慮している。
- ・ PTA活動の目標である「全員の参画」まで至っていない。(PTA組織の在り方の見直しを行っている。)
- ・ 単学級で小学校、中学校と進むため(ほとんどが保育園も)、友人関係が固定化されがちである。(様々な異学年交流活動や体験学習等を通して、友人関係を広げたり、コミュニケーション能力を育成したりしている。)
- ・ すべての家庭に情報が届きにくい。(広報紙・HPでの情報発信している。)

【20 おやじの会の現状】

- ・ 活動はコンパクトだが、充実した活動をしている。部長の選出が課題と言える。(事前に前任者が個別に依頼している。)
- ・ 「おやじの会」を立ち上げたが、まだ賛同者が少ない。「おやじの会」から「親路の会」に名称変更するなど、男性・女性を問わないこととし、OBにも参加を呼び掛けた。)
- ・ 一般のPTA会員に活動の輪が広がりにくい
- ・ メンバーの募集方法・活動内容に課題がある。活動がマンネリ化している。(PTAや地域団体と共催事業を行う。)
- ・ 仕事で忙しい中でもあらゆる活動に協力をしているが、仕事、家庭での時間の中から参加が難しいときもある。
- ・ 運動会当日など、多くの男性が集まる機会に声掛けをして、入会を呼び掛けている。

【21 県内の登録博物館及び博物館相当施設の現状】

- ・ 利用者ニーズを把握し、最新情報への更新や新たな機器の導入が必要と考える。(常設展示室をリニューアルし、新たな映像機器を導入し、解かりやすく親しみやすい展示内容としたが、利用者ニーズを把握し、展示内容を随時見直すほか、他の機器についても検討する。)
- ・ 施設の老朽化が進んでおり、中長期的な施設改善について検討しなければならない。

(施設の老朽化については、現在設備の修繕・機器の取り換え等により延命化を図っている。)

【22 県内公共図書館の現状】

- 財政状況の影響を受け、すべての分野において予算が減少している。特に資料購入予算において顕著である。予算を獲得できる事業企画や、既存の事業の効果説明に取り組むことが課題となっている。(図書館や読書に興味を持ってもらうためのイベントや行事の開催。市民が解決を求めている課題に対し、図書館としてどのような支援ができるかを掘り起こす。他の図書館や類縁機関と連携し、様々な機会を活用して利用者が求める知識や情報を提供するよう努めている。)
- 人口の減少や、書籍価格の上昇による購入受入冊数の減少などから、利用は減少傾向にある。(今まで図書館を利用していなかった市民に図書館サービスを提供するため、電子図書館を導入した。)
- インターネット予約などの提供により来館機会が減少し、結果利用の減少に影響していると思われる。(イベントの開催などにより、来館機会を増やす工夫をしている。)
- 所蔵能力の上限に達しつつあり、今後は除籍が多くなることが考えられる。(資料の除籍について計画的に実施するよう指定管理の仕様に盛り込んだ。)
- 寄贈図書や児童書貸出数が減少している。(収容可能冊数を考慮した除籍、寄贈図書の呼びかけ、子ども読書推進活動・幅広い年代対象のお話し会等を開催している。)
- 蔵書冊数が年々増加していくが、収蔵能力冊数は5年以上前から本館分館ともに超えており、書架の増設や可動式閉架書庫などへの改修を検討する必要がある。(現状維持を保つため、受け入れ図書を選別し、除籍冊数での調整を行っている。)
- 読書人口(特に中高生)の拡大。(ヤングアダルトコーナーの充実。幼年時からの読書習慣促進。)